

百年大計（沖繩志部）

森川 応樹

目次

- ①今までから現状まで
- ②将来展望、ビジョン
- ③直近1年の目標、計画
- ④なぜやるのか、諦めない理由

①今までから現状まで

2016年11月から、森川が沖縄へ ～ 2020年1月5日まで

- ・トークイベント@ジュンク堂書店さま
 - ・ラジオ起業塾@エフエム那覇さま
 - ・勉強会@桜坂市民大学さま
 - ・フォローアップ@桜坂市民大学さま
- など

①今までから現状まで

会員 2名（中田さん、森川） ※中田さんはトークイベントから

参加 10名（トークイベント2名／桜坂市民大学8名）

企画 トークイベント／3回、 ラジオ／毎週、 桜坂市民大学3期（8名）、

※2019年7月発表時

会員 2名

参加 7名（会員さんではないが、継続してご参加される方）

②将来展望、ビジョン

【ビジョン】

起業家教育で沖縄の人々を幸せに！

※140万人の沖縄県人がもれなく、志を実現できる世の中を作る

②将来展望、ビジョン

沖縄の現実を鑑みると・・・

生活水準は、もっと上がって然るべき

- ・物価が高い（宮古島は特にバブル。1R家賃が10万円）
- ・生活費がかかる（駐車場が必要、電車がなし、食費高い）
- ・給与が低い（沖縄は全国最下位。300万未満が多い）
- ・シングルマザーが子育てしながら、働いている

県内の産業は、過去の諸先輩の築いて来られたものを土台に、もっと育てる余地がある

- ・外資や県外資本多数（オリオンビールの買収など）
- ・人出不足（経験が拙いスタッフを戦力として入れざるを得ない）
- ・140万人の市場規模。主産業が「観光」「軍需」「IT」。

沖縄復興予算は、毎年約3,000億円。

経緯と使い道は間違っているとは言わないが、更に良くする余地あり。

②将来展望、ビジョン

【将来展望】 2020年から2030年までの10年間の視野に

沖縄に経済面で貢献

- ・ 起業家率全国1位の継続に寄与
- ・ 毎年100,000円以上の募金を財団名義で（2020年から、毎年）
- ・ ファンドを作る（5年以内）
- ・ 月商100万プレイヤーを多く排出（2030年までに10名）

文化面で貢献

- ・ 学校を創る（ビジネススクールと、文化講座的なもの）
- ・ マスメディア（出版事業、ラジオ事業、映像事業）

現実を変える力をつける

- ・ 他地域に支部を創れる人財を排出
- ・ 沖縄に本社を持つ企業を作り、沖縄以外に支店を出す

③直近1年、半年の目標、計画（振り返り）

【2019年の目標の振り返り】

- ・ 5名の会員さん ⇒ 中田さん1名（▲4名）
- ・ 月商100万円プレイヤーを排出（2名） ⇒ 0名（▲2名）
- ・ 別の地域の準支部を作る（着手） ⇒ ペンド。再スタート。
- ・ 支部の住所を創る ⇒ 着手中。

【そのためにやったことの振り返り】

- ①継続（トークイベント、ラジオ、桜坂市民大学、CFゲームなど）
 - ②新しく（読書会、実践会、交流会、その他）
 - ③OWM作成
- ⇒ ①はできたが、②③が未着手。（①を継続することで、確率的に、1名は入会される）

【原因】

- A：「本気の方に出会えない」2019年までのことを踏襲。それではリーチできない方々へのリーチができていない。
- B：「ご縁のあった方の本気度を高める」提供する企画などの数を増やす
- C：上記を1名では着手しきれない

③直近1年の目標（'20年）

【2020年の目標】

- ・5名の会員さん ⇒ 残り4名様
- ・支部の住所を創る ⇒ 完了

【そのためにやること】

- ①継続（トークイベント：2～3回、ラジオ：毎週、桜坂市民大学：4期、フォローアップ：毎月）
- ②新しく（読書会、実践会、交流会、その他）

※OWMは財団本部のものを活用

⇒ 着手できなかった②は中田さんと協力して
（今までは一人でやってきたが、それを協力しながら）

【補足】

A：「他の志部を作る」「月商100万円プレーヤー排出」は、上記「5名」を達成した次のステージとして。

B：坂本先生の沖縄県の更なるメディア露出（テレビなど）

③直近1年の計画（'20年）

【2019年】

- ・トークイベント ⇒ 1名ご入会
- ・桜坂市民大学 ⇒ 8名ご参加（ご入会は0名）／3期

【2020年】

- ①トークイベントを継続 ⇒ さらにもう1名、ご入会（と想定）
- ②桜坂市民大学を継続 ⇒ 10名ご参加（と想定）／4期
- ③参加者フォローの充実 ⇒ 8名（'19年）＋10名（'20年）＝合計18名ご参加
この中から2名のご入会に向けて
- ④新しい企画（実践会等）⇒ 1名のご入会

④なぜやるのか、諦めない理由

歴史的にも、現状の経済状況を見ても、
まだまだ、理不尽と感ずることが少なくない沖縄県に貢献する。

それを通して、真志命の実現をする。